

－林道歩きを－

(記 岡本)

寄る年波には勝てないと言う。年配者に多い脊椎管狭窄症で入院手術した。術後の回復は良く、手術前と変わらぬ程、足早に歩けるようになった。体調が元に戻ると、いつ山に行けるか、早く自然の中を闊歩したいと言う思いが募る。寒さに向かうのだから大事をとって再開は来春からにしたらと家族から言われた。それも尤もだと自分を納得させようとした。その一方で初冬の自然の中を二年振りに歩きたいという想いをどうしても払拭できないでいた。そこで千慮をめぐらし、山歩きであるが、山歩きではなさそうな林道歩きを試してみることにした。



林道のイメージ

林道を歩いてみるのはどうだろうか。林道は高低差が小さく、車両を通す道だから岩などの障害物は先ずないであろう。いや、舗装されている林道は多い。足元は歩きやすく幅広の道だから道迷いを防ぐのも容易である。エスケープルートに林道が使われることも多いのだ。

これまでの山歩きを振り返ってみると、林道は山道の途中を横切っていたり、登山口へのアプローチであったり、反対に登山道を降りた後、バス停や集落にでる下山部分であった。舗装された林道を硬い登山靴で歩くのは快いものではなかった。また、山行ルートを設定する場合にも、出来るだけ林道を避けるようにした。思い返すと、数年前に地図に鋸山林道とれっきと記された林道を歩いていた。北秋川の神戸(かのと)から神戸岩を横に見て、大岳山と御前山の間点にある大ダワで北へ尾根を越え、登計(とけ)に降って奥多摩駅に至るコースである。延長約13kmでコースタイムは4時間15分(昭文社地図)である。神戸(0の標高が約320m、大ダワは約1000m、登計は約350mであるから、標高差が700m近い林道で全線が舗装されている。大きな谷間の片側の山腹に開かれた道なので対岸の眺望は良く、深緑の絶景に足を何度も停めたことがあった。

自分が歩くとするれば、こんな林道を歩いてみたいと欲張りなことを夢想している。舗装されず自然道の道を歩きたい。土や砂利を敷いた、そんな道が山腹を数キロ巡っても、その間の標高差は200m程と小さく、登降差の苦労がない。山腹に懸かった道から眼下に寒村の佳景に足を休め、時に鬱閉した樹林帯の幽寂境に出くわす幸運に巡り合い、斜陽を受けて黄色く映える手入れが行き届いた植林帯の側を通り過ぎ、たぎる溪流の勢いに元気を得てゆっくりと歩く。こんな林道を歩けるならば理想的である。

今後更に歳月を経て、避けられない体力の衰えがあろうとも、四季折々の景物を満喫するために、自然の中を歩きたい。厳しい山行は諦めざるを得なくなるが、そんな状況に立ち至れば、専ら日帰り林道歩きという安全策に梶を切らざるを得ないと考えている。最近ではオフロードの自転車やバイクで林道をツーリングする愛好家が増えているという。特に未舗装の林道を探して疾駆する連中もいるようだ。落石のところも結構あるという。林道だからといって気を緩め過ぎてはならず、自然の中に身を置く以上、注意が必要である。

改めて林道とは何かの定義付けを考えると、木材などの林産物の搬出や林業の資材を運搬するために森林内に開かれた道を総称し、通常は自動車道を指すことが多く、実態としては山村の生活道になっている場合も多くみられる。土道もあればセメント舗装の道もある。林道の機能によって森林基幹道、森林管理道、森林施業道（一般に作業道と呼称）に分けられている。通常林道といえば、森林管理道のことであり、車、バイク、自転車がツーリングする多くの道がこの種のものである。これをさらに細かく見ると、基線林道、支線林道、分線林道というランクがあって各々の幅員は4m以上、3m以上、2m以上に大体別れている。

初冬の林道歩きにはどこが良いか探してみたが、林道の情報は意外に少なく思い通りのところは直ぐには探せない。数日地図を眺めるなどして、漸く歩いてみても良いかなという林道を探し当てた。林道井戸入線である。御前山に登るルート上の栃寄から東へ林道井戸入線に入り、鋸山林道に抜けるルートである。林道自体の距離は2.5キロ程と短い、土の林道である。道は北方向の石尾根方面に向けて開かれており、眺望は良さそうである。

林道は管理者によって国有林林道（林野庁が管理）とその他の民有林林道（地方自治体、個人、森林組合が管理）に分けられ、国有林林道は「…林道」、民有林林道は「林道…線」と呼ばれる。民有林林道の井戸入線はどこの管理であろうか。

春になれば、奥多摩の風張林道と後山林道、奥武蔵の有馬線・大名栗線を歩いてみようと思いを膨らませている。

（了）